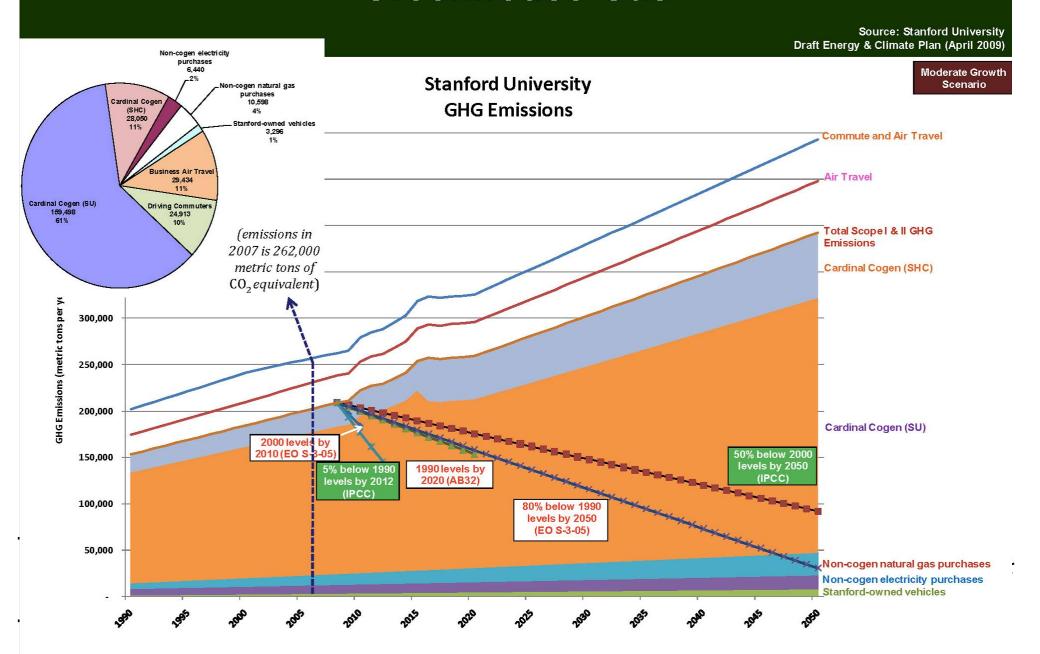


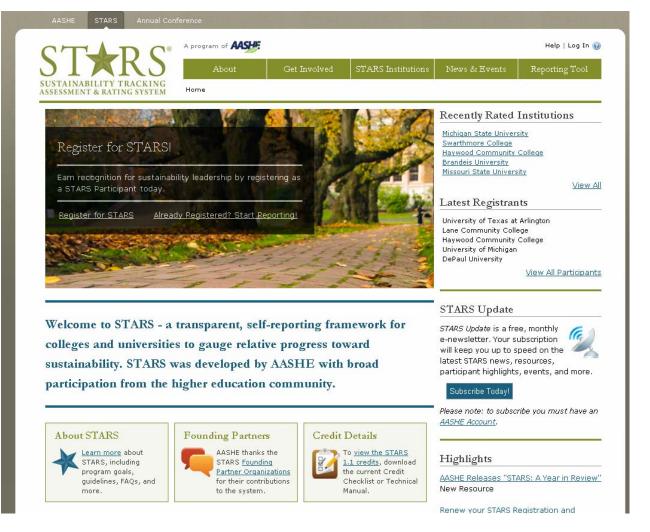


サンフランシスコから車で約1時間の場所に位置する。 キャンパスの広さはおよそ33,100,000 m2 学生数は約32,000人(大学院生は除く)。

スタンフォード大学

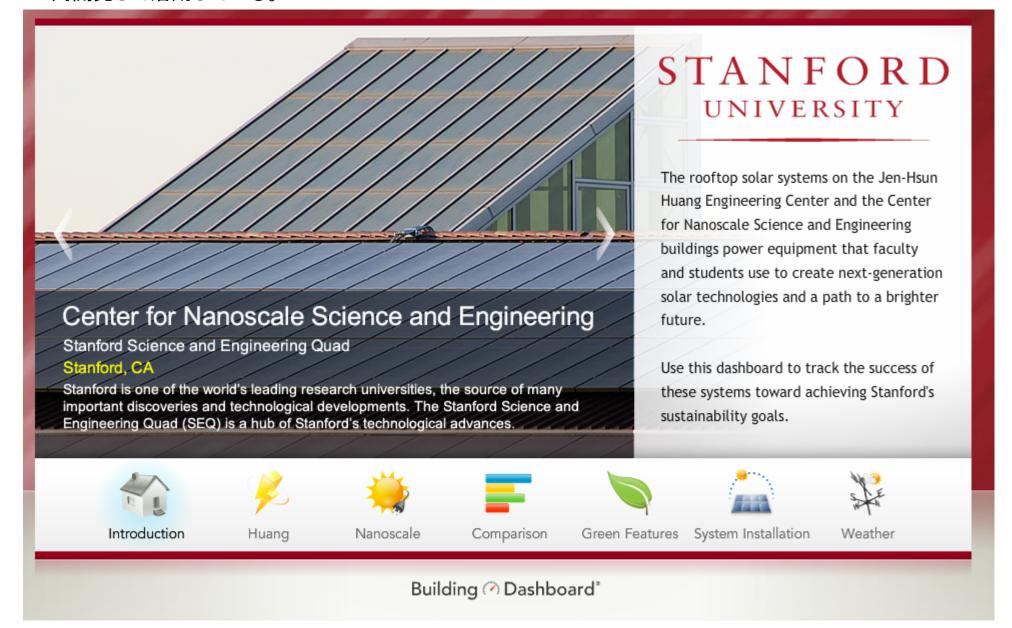
Greenhouse Gas

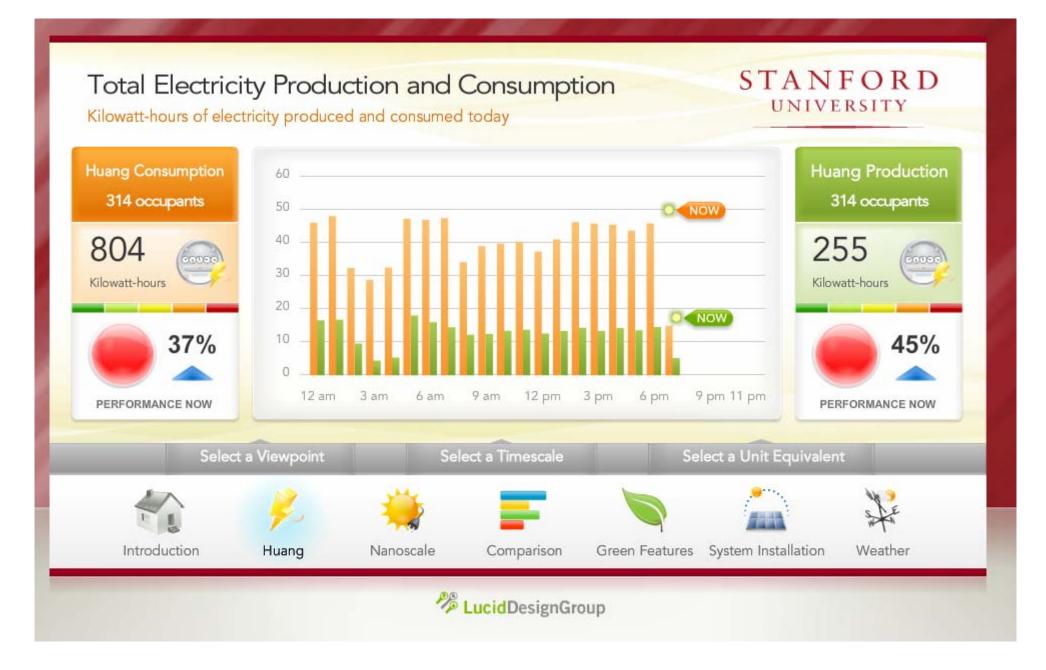




- ・ STARSに関しては、透明性のある評価システムであるし、また参加することにより他大学の活動 に関する情報を入手できるので、大学としては評価している。
- アメリカ政府はオバマ政権になっても、さほど環境面には力をいれていないが、カリフォルニア州のほうが、環境政策はむしろ積極的である。大学としては、環境面に関する法的規制が強化された方が、学内に対して説得しやすいが、アメリカの大学関係者は、政府や州とは関係なしにサステナ活動に取り組んでいる。

• 電力などのエネルギー使用のウェブ上でのモニタリングシステム(Sustainable Dashboard)を、民間企業と共同開発して活用している。





ライブで現在の太陽光発電の発電量やCO2削減量などが一目で分かる仕組みになっている
 http://www.buildingdashboard.com/clients/stanford/engineering/

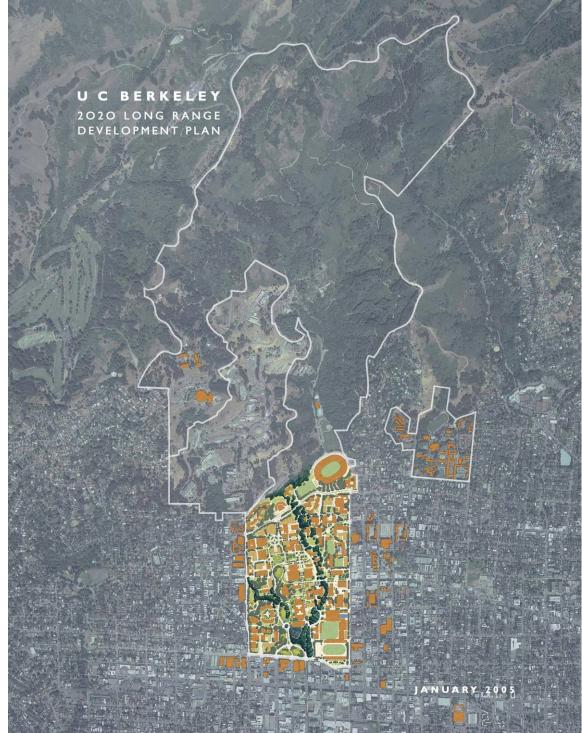


FIGURE 2 ILLUSTRATIVE CONCEPT



Existing Buildings



Potential Campus

This illustrative concept, from the UC Berkeley New Century Plan, depicts one way in which the program described in the 2020 LRDP might be realized on the UC Berkeley campus.

Potential new buildings in this figure are represented as prototypes, based on modular dimensions adaptable to a range of university functions. However, the buildings are configured to respect and enhance campus spatial and architectural relationships, and are meant to inform the design of future projects by depicting building concepts consistent with the Campus Park Guidelines.



2007 Campus Sustainability Planを改定

大学当局は、とにかくサステナブルキャンパス 活動を実施することにより予算を節約、更なる 投資原資とすることを期待している。

色々な職員、学生の環境グループ組成活動 (省エネ啓発活動)を行っており、学生1人\$5 相当のグリーンファンドを積み、活動資金とし て活用している。

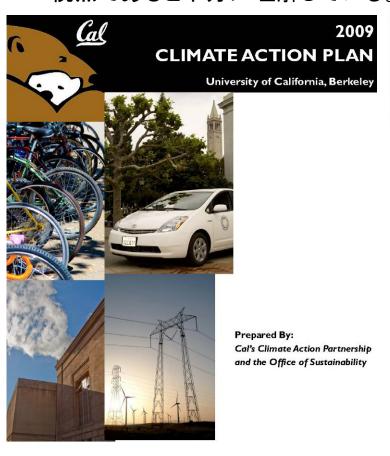
地方自治体、民間のファンドも活用されている。 ・ (ESCO事業 等)

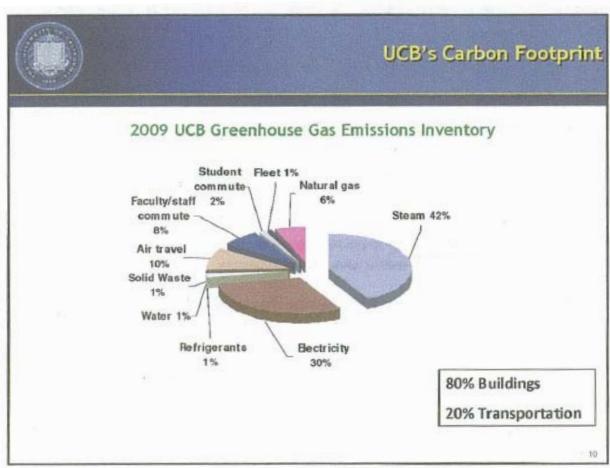
2009 Campus Sustainability Plan	
Energy & Climate	By 2014, reduce greenhouse gas emissions to 1990 levels. (CalCAP) Achieve climate neutrality as soon as possible. (CalCAP, UCOP)
Water	By 2011 or earlier, set a water reduction goal and analyze and approve feasible water reduction, reuse, and/or recycling projects.
Built Environment	Design future projects to minimize energy and water consumption and wastewater production; incorporate sustainable design principles into capital investment decisions; base capital investment decisions on life cycle cost, including the cost of known future expenditures. (LRDP)
Waste	Achieve a 75% diversion rate by June 2012 and zero waste by 2020. (UCOP)
Purchasing	By 2011, develop a green purchasing policy.
Transportation	By 2014, reduce fuel use by commuters and campus fleet to 25% below 1990 levels.
Food & Dining	By 2020, increase sustainable food purchases by campus foodservice providers to at least 20%. (UCOP)
Land Use	Plan every new project to serve as a model of resource conservation and environmental stewardship. (LRDP)

The Campus Sustainability Goals and the key strategies for meeting them are outlined in the <u>2009 Campus Sustainability Plan</u> (July 2009). This plan draws from the below campus planning documents, which are also referenced in each section below.

- The <u>Cal Climate Action Partnership</u> (CalCAP) manages our greenhouse gas emissions reduction goal and action plan.
- The <u>2020 Long Range Development Plan</u> (LRDP) for UC Berkeley and its
 accompanying <u>Environmental Impact Report</u> (LRDP EIR). Some highlights of the LRDP
 are included in this Plan, but more details on how UC Berkeley is reducing its broader
 environmental impacts are available in the documents themselves.
- The <u>University of California "Policy on Sustainable Practices"</u> (UCOP) outlines how the entire system will minimize environmental impacts and increase usage of renewable energy.
- The <u>Strawberry Creek Management Plan</u> (SCMP) continues to improve water quality in Strawberry Creek and provides hands-on training in restoration for university and K-12 students.

- ・STARSには、現在のところ参画していない。
- STARSがランキングのためのシステムかレポートのためのシステムか明快となっていないと、 バークレーは捉えている。ランキングだけが独り歩きする可能性がある。
- ・ 学生等を大学に引き付けるためには、サステナ活動を積極的に実施しているということが重要な 視点であると十分に理解している。この視点で、UCLAやUCデービスは参加すると聞いている。





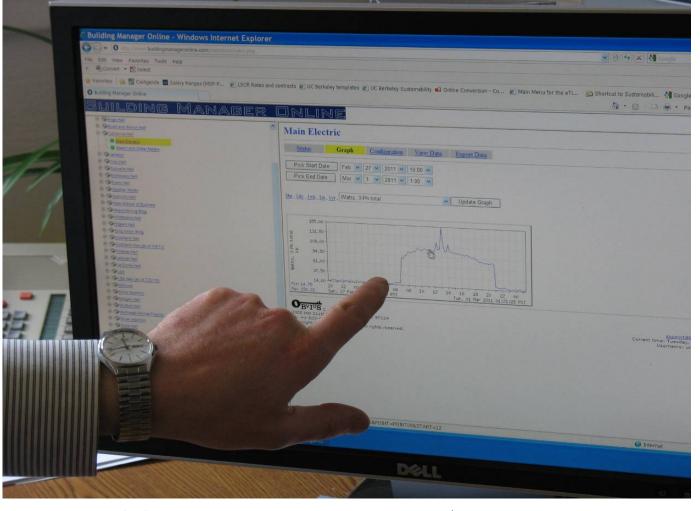
http://calcap.berkeley.edu

水 2009年で1.2%削減(一人当たり)。 1990年比36%削減を達成。 2011年までに削減目標、 削減・再利用計画を策定する。

- 建物 2棟のLEED取得建物があり、 13棟が計画中。
- 廃棄物 2009年で固形廃棄物を12% 削減。2012年まで再利用率75% 2020年までにゼロwasteを達成。
- グリーン調達 20011年までにグリーン調 達計画を策定。

\$6.1Mのゲリーン調達を実施、再生 紙の利用率を79%まで達成。

交通手段 2014年までに通勤車両、 大学所有車両の燃料使用量を



1990年レベルより25%引き下げるという目標は達成。2009年で燃料使用量を9.6%下げて、一人当たり燃料使用量を1990年比37%減を達成した。

2009年の出張時航空機利用は28,000人・回におよび、合計距離は111百万マイルとなった。1人・回あたりの搭乗距離は4,000マイル。大学の温室効果ガス排出量(GHGE)の10%を占める。

出張を減らすために、**ビデオカンファレンスやスカイプシステムを活用**するようにしている。また、このことについて、民間企業と連携している。

・ キャンパス内の交通は、8台から10台程度(2路線)の構内循環バスを大学として大学警備課に運用させている。日中はキャンパスシャトルシステムとし、夜間は防犯の観点から「Door to Door」のシステムとしている。

サステイナブルキャンパスのための国際シンポジウム

テーマ

サステイナブルキャンパスの構築

ーこれまでの取組(Achievements)と今後の課題(Challenges)ー

趣旨

米国・カナダの大学を対象に行われているサステイナブルキャンパスランキングや、英国の大学で行われているグリーン・リーグでは、エネルギー消費量などの数値データだけを問題にするのではなく、マネジメント手法や構成員の参加・協力体制まで含めた総合的な施策がその評価対象となっている。

また、国内の幾つかの大学においても、学生に対する環境教育の充実、キャンパスサステイナビリティを推進するための組織整備など、様々な取組みが進んでいる。

今回のシンポジウムでは、米国及び日本におけるサステイナブルキャンパスに関するトップランナーの大学から、これまでの取組(Achievements)やこれからの課題(Challenges)について紹介いただき、サステイナブルキャンパス構築に向けた今後の方向性を検討する。

シンポジウム概要

日時:10月26日(水) 開場9時30分 開演10時00分 終演17時30分予定

場所:北海道大学 学術交流会館 講堂(同時通訳有)

司会:北海道大学施設部長 中村降行

10:00~10:05 開会挨拶 北海道大学理事·副学長 三上 隆

10:05~10:20 来賓挨拶

米国大学からのプレゼンテーション

10:20~10:50 Portland State University, Institute for Sustainable Solutions, Research Assistant Professor Shpresa Halimi

10:50~11:20 University of Oregon, Director for Sustainability Steve Mital

11:20~11:50 UC Berkeley Office of Sustainability, Sustainability Specialist Kira Stol

11:50~12:20 Stanford University(予定)

12:20~12:35 質疑応答

日本の大学からのプレゼンテーション

13:40~14:00 工学院大学建築学部まちづくり学科 教授 倉田 直道

14:00~14:20 千葉大学工学部建築学科 教授 上野 武

14:20~14:40 名古屋大学工学部施設整備推進室 講師 恒川 和久

14:40~15:00 九州大学人間環境学研究院 准教授 鶴崎 直樹

15:00~15:20 北海道大学 サステイナブルキャンパス推進本部 特任准教授・プロジェクトマネージャー 横山 降

15:20~15:35 質疑応答

ディスカッション

15:55~17:25 ディスカッション パネリスト:各プレゼンテーター コーディネーター:北海道大学工学研究院 准教授 小篠 隆生

17:25~17:30 閉会挨拶 北海道大学施設・環境計画室 役員補佐 近藤哲也



UC Barkeley Office of Sustainabilityの皆さんと一緒に!